

科目名	倫理学	分野/教育内容	基礎分野/人間と生活・社会の理解
開講年次・時期	1 年後期 令和 3 年 9 月 6 日	単位数/時間	1 単位/30 時間
担当講師名	音喜多 信博	所属・役職	岩手大学人文社会科学部・准教授
		資格・免許	
授業の概要	この授業では、「多死時代」を迎えようとしている日本社会における医療と「死」のあり方について生命倫理的な観点から考えていく。授業では、とくにインフォームド・コンセント、終末期医療、安楽死・尊厳死、脳死臓器移植などをとりあげる。終末期の患者や家族の意思決定を支える仕組みをどのように構築していくか、死がかかわる場面で個人の「自己決定権」はどこまで認められるのか、ということについて、伝統的な倫理学説や現代の法的な議論などをも参照しながら考察してみたい。		
到達目標	1) 生命倫理学の基本的な概念に習熟するとともに、終末期医療、安楽死・尊厳死、脳死臓器移植をめぐる倫理的問題についての概括的な見取り図をもてる。 2) 上記の諸問題について、医療従事者が従うべき法やガイドラインについての知識を得る。		
事前学習内容	特になし		
成績評価の方法	主として、授業の最終回におこなう記述式の筆記試験の結果で評価する。その他に、授業内に映像資料を見て書いてもらう小レポート、受講態度、ディスカッションへの参加の積極性なども評価の参考とする。		
使用テキスト	テキストは指定せず、適宜 資料プリントを配布する。参考文献は以下のとおり。 今井道夫（2017）、『生命倫理学入門（第4版）』、産業図書。 伊坂青司（2015）、『新版 市民のための生命倫理—生命操作の現在』、御茶の水書房。 黒崎剛・野村俊明編（2014）、『生命倫理の教科書—何が問題なのか』、ミネルヴァ書房。		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	イントロダクションー現代社会における死の特徴		講義
第 2 回	インフォームド・コンセントについて		講義
第 3 回	生命倫理学という学問の成り立ち		講義
第 4 回	終末期医療と QOL の概念		講義
第 5 回	ビデオ視聴(在宅ホスピス)と小レポート作成		講義
第 6 回	安楽死の定義と区分		講義
第 7 回	積極的安楽死をめぐる日本の状況と海外の状況		講義
第 8 回	ビデオ視聴(積極的安楽死)と小レポート作成		講義
第 9 回	安楽死をめぐる哲学的・倫理学的問題		講義
第 10 回	消極的安楽死(治療中止)をめぐる厚労省のガイドラインについて		講義
第 11 回	脳死の定義、脳死と臓器移植との関連		講義
第 12 回	ビデオ視聴(脳死臓器移植)と小レポート作成		講義
第 13 回	臓器移植法について		講義
第 14 回	脳死と植物状態		講義
第 15 回	まとめと試験		
履修上の留意点	授業時に配布する新聞記事などの資料を、授業後に精読すること。		